

アフリカのキリン

保護ガイド





目次

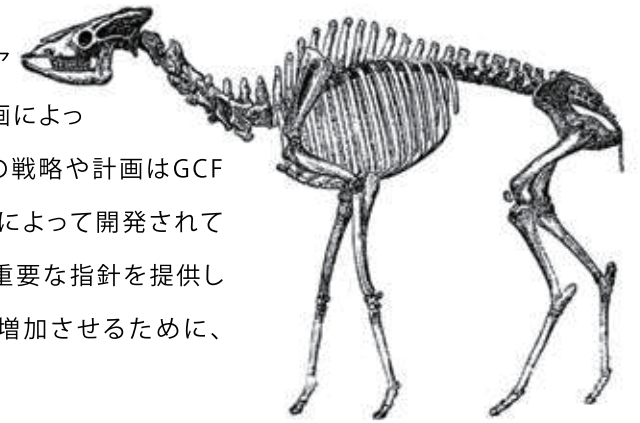
はじめに	1
進化	2
キリンと人間	2
キリンの生態	3
分類学と種	5
分布と生息地	7
マサイキリン	9
キタキリン	11
アミメキリン	14
ミナミキリン	15
保全	18
状況と統計	18
国際条約	21
保全活動の関係者	21
キリンを取り巻く脅威	22
保全活動における制限要因	23
キリンの重要性	25
経済的	25
生態学的	25
これから	26
世界キリンの日	27
キリン保全財団	27



はじめに

本書はキリンに関する重要かつ最新の情報を提供しています。地域社会や政府機関、非政府組織、民間組織などが行なっている様々な保全の取り組みや機会について述べています。キリンの数はわずか35年で約30%減少しており、現在重要な時期にきています。キリンには4つの種があり、いくつかの種が危険な状況に置かれています。IUCNではキリンは1種であると未だ考えられており、2016年のレッドリストにはVU(危急)と記されています。さらに、IUCNレッドリストでは8つの亜種が評価されており、2つはCR(深刻な危機)、2つはEN(危機)、2つはVU(危急)、1つはNT(準絶滅危惧)、1つはLC(低懸念)に分類されました。驚くことに、野生のキリンは今まで保全団体からほとんど注目されず、十分な研究も行なわれなかったのです。幸いなことにこの状況は少しずつ改善されてきており、いくつかの例外を除いてキリンの生息数は増加傾向にあります。これに対処するため、キリン保全財団(GCF)は国際的な協力を通してアフリカのキリンの未来を保護します。これらの取り組みはGCFのアフリカ広域戦略枠組みや、6か国で行なわれたキリン

の保全計画と行動計画、南アフリカのKAZAによる地域計画によって進められています。これらの戦略や計画はGCFによる経済的、技術的な協力によって開発されており、キリンの保全のために重要な指針を提供しています。キリンの生息数を増加させるために、今こそ行動する時です。



WIKIMEDIA COMMONS

進化

ヘラドテリウム(*Helladotherium*)は3000年から5000万年前の始新世と漸新世の間にアジアやヨーロッパの平野や森林を歩き回っていた、高さ3メートルのアンテロープのような動物で、残っている2つのキリン科(キリンとオカビ)の祖先です。現在までに10以上の化石が発見され、600~2000万年前の中新世まではシカに似ており、現在のキリンのような首の長さをまだ発達させていなかったことが明らかになりました。

キリンと人間

この首の長い生物は、エジプト人やヌビア人、サン人などアフリカ大陸の芸術でも示されているように、時代を超えて人々を魅了してきました。ニジェール北部のサハラ砂漠にある岩の彫刻は9000年前のものと推定され、おそらくキリンと人間の関係を記した最も初期のもので、さらにキリンはアフリカ大陸を超えて、紀元前46年ごろにローマ皇帝を喜ばせ、中国の明王朝の芸術作品にも登場します。

キリンは現在でも象徴的であり続けています。タンザニアの国民的動物であり、ボツワナでは高貴な動物であると考えられているため特別な注意が払われています。この特徴的なイメージはあらゆるもの(子供服やワイン、観光地、保険など)を販売する広告として世界中で用いられています。キリンは時代を超えて人々を魅了してきたのに、なぜ今まで保全の対象とならなかったのでしょうか。なぜ彼らは著しい減少を経験することになったのでしょうか。どこを優先的に保全するべきなのでしょう。これは手遅れになる前にキリンを救うため、早急に答えを出さなければいけない多くの問題のほんの一部に過ぎません。

キリンは約1200万年前に近縁のオカビと種分化しました。現在、オカビはコンゴ民主共和国の森林にのみ生息しています。

DID YOU KNOW?

キリンの生態



頭頂高(大人の平均)	♂ 5.3m ♀ 4.3m
体重(大人の平均)	♂ 1,200kg ♀ 830kg
頭頂高(最高記録)	♂ 579cm
体重(最高記録)	♂ 1,905kg
足のサイズ	直径30cm 蹄: ♂20cm、♀18cm (平均)
防御方法	前肢と後肢は致命的なキックが可能。 あらゆる方向に蹴ることができる。
速さ	時速50kmで持続的に走ることができる。 身長3m未満の子どもは大人より速く走ることができる。
採食	物を掴むことのできる舌(50cm)と上唇を用いて 若葉を食べる。
食物	木の葉、果物、植物のさや、芽、まれに草
感覚	色の識別が可能、鋭い嗅覚を持つ、良い聴覚を持つ
睡眠	主に夜間に4.5時間眠る。立った状態、座った状態の両方。
寿命	平均25年
社会的行動	1頭から、大きくてゆるい混ざりあった群れまで様々である。1個体や小さな群れが容易に合わさったり離れたりすることで、群れが形成されている。群れの構成は生息数によって異なる。
性比	1:1に非常に近い
性成熟	♂ 4-7:より大きな雄との競争によって制限される ♀ 3-4:発情は2週間ごとに1日間起こる
繁殖可能な年齢	生涯を通じて繁殖可能 ♀は出産から数週間で交尾を記録



妊娠	約15か月(453-464日)
仔	1頭、稀に2頭。22ヵ月齢まで母親と共に過ごすことが知られているが、性別によってはさらに早く自立することもある。
保全状況	キリンは1つの種として、IUCNレッドリストにVU(危急)と記されている。



DID YOU KNOW?
キリンの上顎には前歯(切歯)がありません。

BILLY DODSON

分類学と種

キリンはオカピやカバ、オリックス、バッファロー、ウシと同様の偶蹄目に属します。サイやシマウマ、ウマは奇蹄目です。地球上で最も背が高く、最も大きな反芻動物であり、以下のように分類されています。

綱：哺乳綱
目：偶蹄目
科：キリン科
属：キリン属

2016年にIUCNはキリンの保全状況に関する最初の詳細な評価を完了し、その生息数が危険な状態であることを明らかにしました。2018-2019年にはIUCNが認めている8つの亜種のうち、いくつかはCR(深刻な危機)に相当すると評価しました。このアップデートによりアフリカの大型動物相の一つが脅威に晒されていることが示された一方で、キリンの保全について混乱した状況(キリンの種/亜種はいくつあるのか)を浮き彫りにしています。

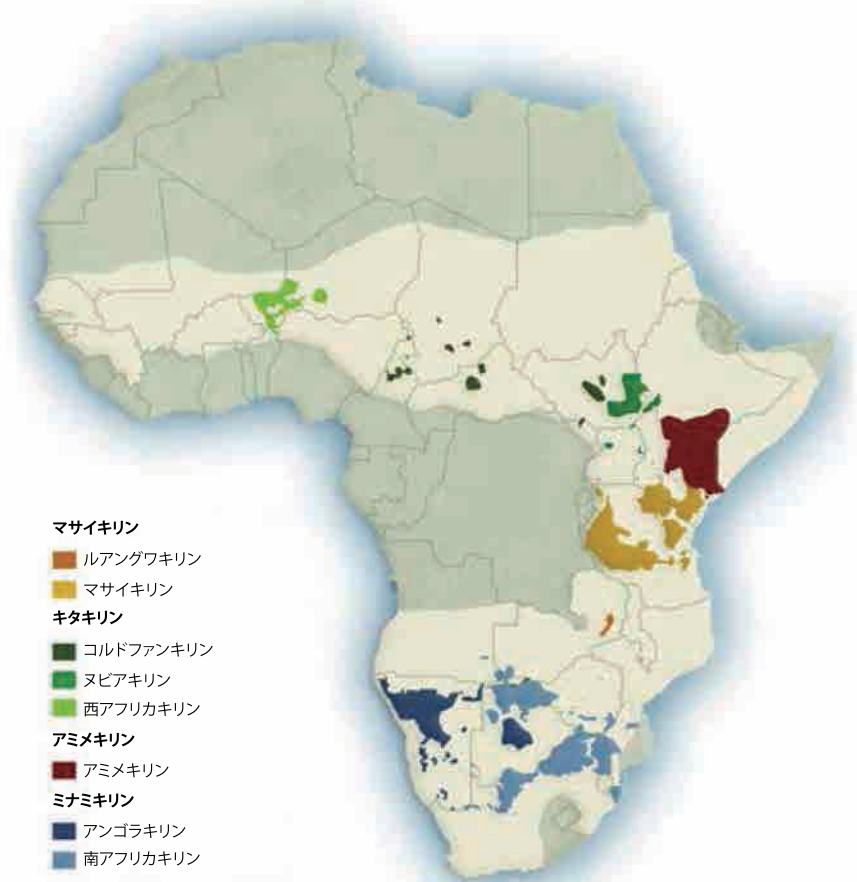
現在、IUCNはキリンを1つの種、9つの亜種としており、形態学的な特徴や地理的範囲といった古い分類方法を用いています。亜種は、アンゴラ(*G. c. angolensis*)、コルドファン(*G. c. antiquorum*)、マサイ(*G. c. tippelskirchi*)、ヌビア(*G. c. camelopardalis*)、アミメ(*G. c. reticulata*)、ロスチャイルド(*G. c. rothschildi*)、南アフリカ(*G. c. giraffa*)、ルアングワ(*G. c. thornicrofti*)、西アフリカ(*G. c. peralta*)となっています。



しかし、GCFはゼンケンベルグ生物多様性気候センター(BiK-F)とともに、アフリカ全域におけるキリンの主要な個体群のDNAサンプリングと分析(ゲノム、核、ミトコンドリア)を初めて実施しました。この研究により新たな分類方法が示され、4つの種と7つの亜種に分類されました。4つの種とは、マサイキリン(*G. tippelskirchi*)、キタキリン(*G. camelopardalis*)、アミメキリン(*G. reticulata*)、ミナミキリン(*G. giraffa*)です。アンゴラキリン(*G. g. angolensis*)と南アフリカキリン(*G. g. giraffa*)はミナミキリンの2つの亜種です。ヌビアキリン(*G. c. camelopardalis*)とコルドファンキリン(*G. c. antiquorum*)と西アフリカキリン(*G. c. peralta*)はキタキリンの3つの亜種です。ロスチャイルドキリンはヌビアキリンと遺伝的に同一です。種として定める際にはヌビアキリンが優先され、ロスチャイルドキリンがその中に含まれます。ルアングワキリン(*G. t. thornicrofti*)とマサイキリン(*G. t. tippelskirchi*)はマサイキリンの2つの亜種です。GCFの保全活動と出版物はこの分類方法に基づいています。

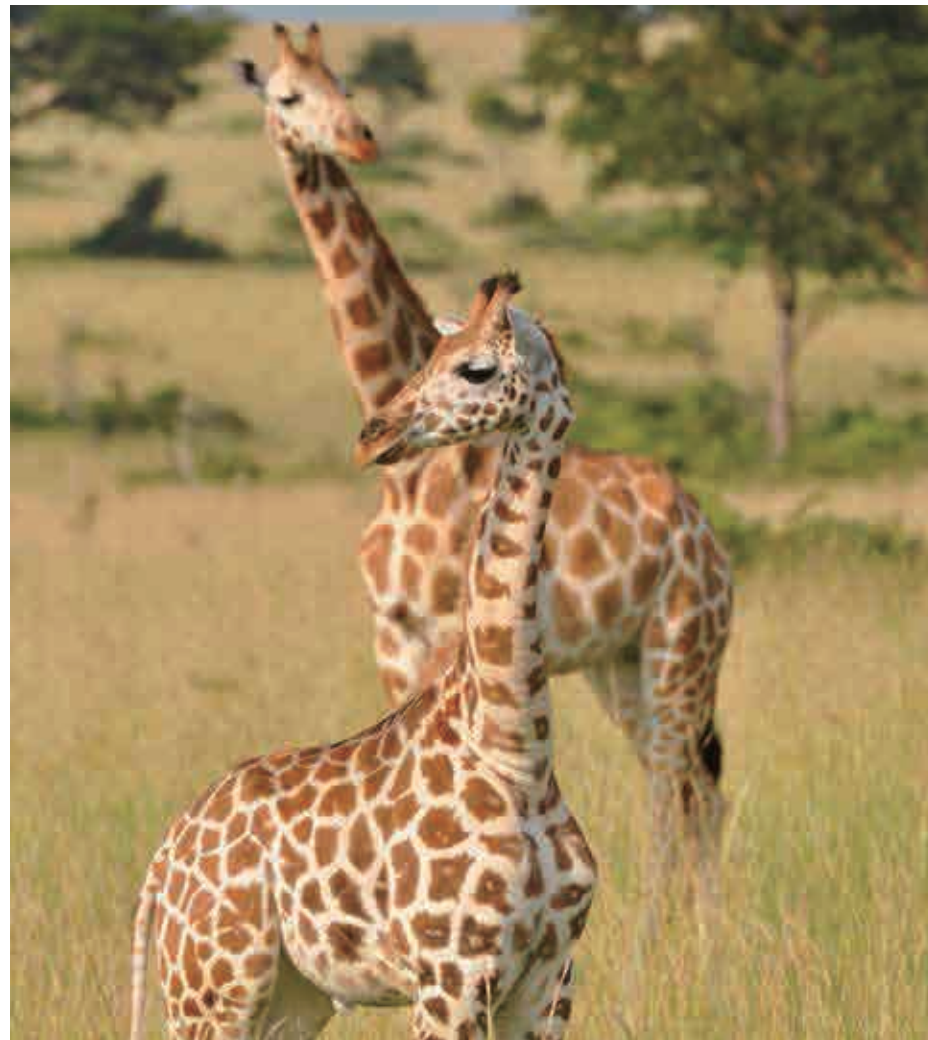
キリンのすべての種と亜種は、アフリカ全土の異なる地域に生息しています。動物園においては異種交配が起こっていることが報告されていますが、それが自然界で起こっているという証拠はほとんどありません。

分布と生息地



アフリカ大陸全体でキリンの個体数は減少しており、今まで生息していた地域から姿を消し始めています。1700年代から現在までに、キリンの生息地は89%減少したと推定されています。キリンの生息地のうち、たったの29%しか自然公園や保護区として政府から保護されておらず、政府による保護区を超えて、その土地の所有者やキリンの生息地で暮らす人々と協力して保全活動を行う努力がより求められています。

4種のキリンは現在21の国で生息しており、ニジェールから中央および東アフリカ、南アフリカまでのサハラ以南に大きな弧を描くように生息地が存在します。キリンはブラウザ(注)であり、その長い肢と首のおかげで他の動



届かない場所の食物を採ることができます。しかし、高さに特化したにもかかわらず、キリンは低い木や茂みが多くて高い木が少ない場所でも繁栄しています。ですがキリンには、高い木の葉を食べようと首を伸ばしているイメージが定着しています。

水を飲むためには、まず前肢を広げるか関節を曲げなければならず、それから首を下げることでやっと水面に到達することができます。しかし、その体重の割に水はそこまで必要ではなく、餌となる植物から十分な水分を吸収することができます。容易に水を手入れできるときさえ、多くのキリンはほとんど水を飲まないのです。

マサイキリン

Giraffa tippelskirchi

最近の研究によるとマサイキリンにはマサイキリンとルアングワキリンの2つの亜種があることが示されています。野生下では45,400頭以上のマサイキリンが生息しています。

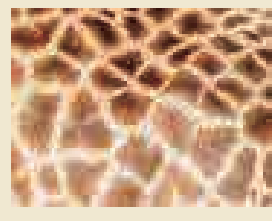
亜種:

ルアングワキリン *G.t.thornicrofti*

ルアングワキリンはザンビア東部にある南ルアングワ渓谷で孤立した個体群として存在しています。個体数はここ数十年の間650頭ほどで安定していますが、1つの地理的地域にのみ少数の個体しかいないため、IUCNレッドリストではVU(危急)に分類されています。近年ではその生息域と個体数はゆっくりと増加傾向にあります。



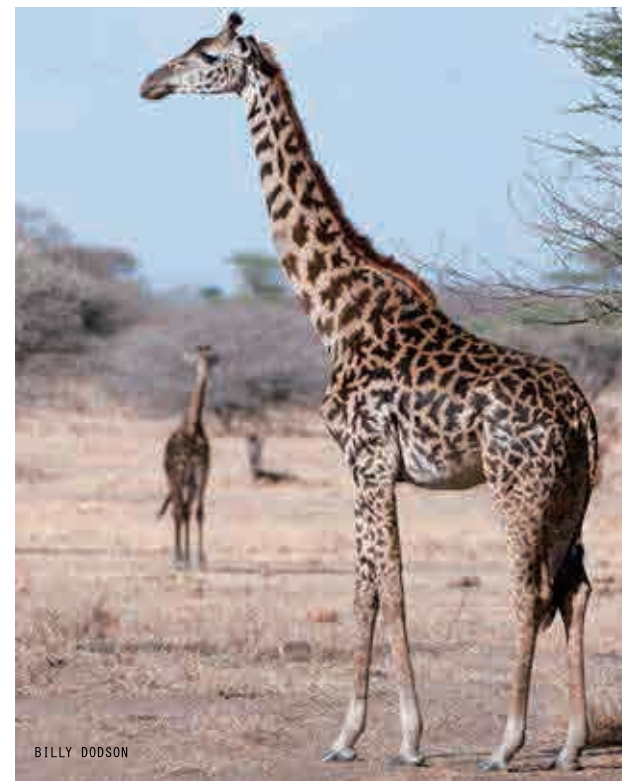
ルアングワキリンの色彩や模様はマサイキリンに似ています。つるの葉のような形の斑紋があり、その周りにはクリーム色で、下肢に向かうにつれてギザギザになっています。



亜種:

マサイキリン *G.t.tippelskirchi*

マサイキリンはケニア中部と南部、タンザニア全土に生息しています。マサイキリンが過去にルワンダに生息していたかは不明ですが、いくつかの個体群はルワンダのアカゲラ国立公園に移されました。35年前は71,000頭と推定され最も個体数の多いキリンでしたが、現在では44,750頭ほどしかいません。現在でも起こっている密猟や生息地の分断によって、マサイキリンの生息数は未だ脅威に晒されています。しかし最近の推定ではゆっくりと回復傾向にあることが示されています。IUCNレッドリストではマサイキリンが約50%減少していることに注目し、EN(危機)に分類されています。しかしGCFでは、ここ5年で増加傾向にあると評価しています。



マサイキリンの斑紋は大きく、暗褐色で、縁がギザギザしたつるの葉のような形をしているのが特徴です。その斑紋は、クリーム色の茶色で囲まれていて、それは下肢にまで続いています。



キタキリン

Giraffa camelopardalis

キタキリンは野生下で6,000頭弱と推定されており、主要地域では個体数が徐々に回復しています。3つの亜種はアフリカの東部、中央部、西部に生息しています。

亜種:

コルドファンキリン *G.c.antiquorum*

コルドファンキリンは紛争が多く、政治的に不安定な地域(チャド南部、中央アフリカ共和国、カメルーン北部、コンゴ共和国北部、南スーダン西部)に生息しています。これらの紛争多発地域で約2,300頭が生息していると推定されています。ここ35年の間に80%以上個体数が減っており、IUCNレッドリストではCR(深刻な危機)に分類されています。



コルドファンキリンの斑紋は淡く、不規則です。他のキタキリン亜種と同様に、下肢に斑紋はありません。



亜種:

ヌビアキリン *G.c.camelopardalis*

ヌビアキリンの個体数は約3,000頭と推定されており、遺伝的に同一とみなされたロスチャイルドキリンも含まれています。現在、エチオピア西部では175頭未満、南スーダン東部では450頭未満、ケニアでは約700頭、ウガンダでは1,800頭以上が生息しています。

ヌビアキリンの多くはケニアの一部の地域(本来の生息域外)に生息しており、保全のために努力した結果です。

エチオピアと南スーダンで生息する、小さく断片化された個体群について正確な情報を得ることは極めて難しいですが、この地域における密猟の増加によって個体数は減少している可能性が高いです。ここ35年の間に95%減少しているという推定に基づき、ヌビアキリンは初めてIUCNレッドリストにCR(深刻な危機)として分類されました。2010年にはロスチャイルドキリンと分類されていた亜種は絶滅寸前と言われていましたが、政府やGCFなどの協力者の保全努力のおかげで個体数は増加し、NT(準絶滅危惧)へと引き下げられました。IUCNが2つの亜種を1つとして認めれば、ヌビアキリンはCRに分類されたままとなる可能性が高く、さらなる保全が必要です。



ヌビアキリンの斑紋は大きく、長方形で、栗色です。斑紋はオフホワイトのクリーム色に囲まれています。下肢に斑紋がないのはキタキリンの特徴です。



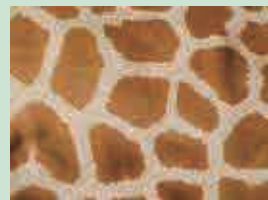
亜種:

西アフリカキリン *G.c.peralta*

20世紀初頭、西アフリカキリンはナイジェリアからセネガルまで広く分布していました。しかし1990年代半ばまでに、たったの49頭しか残っていませんでした。わずかに残った個体はニジェール政府によって保護され、現在では600頭以上まで数を増やしています。しかし彼らが主に生息している地域は首都ニアメの東部にある孤立した場所で、地元の村人と生活空間を共有しているため、未だその将来は懸念されています。この地域には他の大型哺乳類は生息しておらず、生息地の破壊と喪失が増えています。2018年にGCFはニジェール政府と協力して、8頭の西アフリカキリンをガダベジ生物圏保護区に移し、個体数と生息域の増加を目的とした新たな個体群を確立しました。2008年、西アフリカキリンはIUCNレッドリストでEN(危機)に分類されていましたが、2018年には個体数の増加によりVU(危急)へと引き下げられました。



西アフリカキリンは、見た目が軽いのが目立ちます。その斑紋は長方形で褐色、クリーム色で広く囲まれています。彼らの下肢に斑紋はありません。



アミメキリン

Giraffa reticulata

アミメキリンは比較的限られた地域にしか生息しておらず、ケニアの北部と北東部、そして小さな個体群がソマリア南部とエチオピア南部にのみです。およそ16,000頭が生息していると推定されており、35年前の約36,000頭から50%以上減少しています。この減少によって2018年にIUCNレッドリストではEN(危機)に分類されました。しかし、近年は保全活動が進められており、ケニア北部で個体数が増加してきています。アミメキリンの95%以上が政府の管理する保護区域外に生息しており、キリンの保全においてはその地域との協力が必要不可欠となっています。



橙褐色の斑紋に、脚の先まで続く印象的な白い線がくっきりと浮かび上がり、アミメキリンと呼ばれることがよくわかるでしょう。



ミナミキリン

Giraffa giraffa

2つの亜種からなるミナミキリンは南アフリカに約50,000頭生息しており、キリン全体の40%以上を占めています。

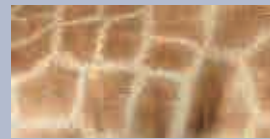
亜種:

アンゴラキリン *G.g.angolensis*

アンゴラキリンという名前にもかかわらずアンゴラでは絶滅しており、現在生息しているのはナミビアから移入した個体です。アンゴラキリンはボツワナ中部、ナミビア、ジンバブエに生息しています。いくつかの個体群はボツワナとジンバブエに移されました。30年前は5,000頭と推定されていましたが、現在では4倍の20,000頭以上になっています。近年の個体数の増加を考慮し、IUCNレッドリストではLC(低懸念)に分類されています。



アンゴラキリンは比較的明るい色をしています。ナミビア北西部の特に乾燥地帯ではほとんど無色に近く、大きくて不規則な斑紋の周囲は淡いクリーム色で囲まれています。下肢もランダムに斑紋があります。



亜種:

南アフリカキリン *G.g.giraffa*

南アフリカキリンはアンゴラ南東部、ナミビア北東部、ボツワナ北部、ザンビア南西部、ジンバブエ、モザンビーク南部、南アフリカに点在しています。過去に南アフリカキリンとアンゴラキリンが同じ地域に再導入されたことで、交雑種が生まれた可能性が高いと言われています。また、南アフリカキリンはアンゴラ、セネガル、南アフリカ、ザンビア、ジンバブエへの導入もされています。現在南アフリカキリンの個体数はおおよそ30,000頭と推測されており、35年前から150%以上増加しています。近年では個体数は安定してきています。IUCNレッドリストでは南アフリカキリンの評価は行われておらず、このうちの何頭がアンゴラキリンと交雑しているのかもわかっていません。以前と比較して個体数が増加し安定しているため、南アフリカキリンはLC(低懸念)に分類されています。



南アフリカキリンには星形の斑紋があります。褐色の濃淡があり、アンゴラキリンによく似ています。下肢にもランダムに斑紋があります。





保全

状況と統計

1980年代、アフリカに生息するキリンの数は155,000頭以上であると推定されていました。現在GCFではキリンの個体数はおよそ117,000頭であると推測しています。これは約30%の減少であり、2016年にIUCNは100,000頭を下回ると予想していましたが、やや明るい見通しとなりました。この最新の情報は、個体数の増加や改善を考慮したものです。しかし、残念なことに、主要な生息地の数は95%減少したと考えられています。

GCFらによる4つの種の発見によって、IUCNのキリンに対する保全の評価も変わるのではないかと期待しています。最も重要なのは、それぞれの種が分類学的に認められて保全の対象となることなのです。

2016年、キリンは1つの種としたうえでLC(低懸念)からVU(危急)へと引き上げられました。2018/19年には8つの亜種が評価されて現在まで記載されています。そしてこれらすべての評価はGCFの調査をもとに行われています。

未評価	データ不足	低懸念	準絶滅危惧	<危急>	危機	深刻な危機	野生絶滅	絶滅
NE	DD	LC	NT	VU	EN	CR	EW	EX

IUCN レッドリスト

種:

キリン

VU (危急)

記載されている亜種:

アンゴラキリン

LC(低懸念)

コルドファンキリン

CR(深刻な危機)

マサイキリン

EN(危機)

ヌビアキリン

CR(深刻な危機)

アミメキリン

EN(危機)

ロスチャイルドキリン

NT(準絶滅危惧)

ルアングワキリン

VU(危急)

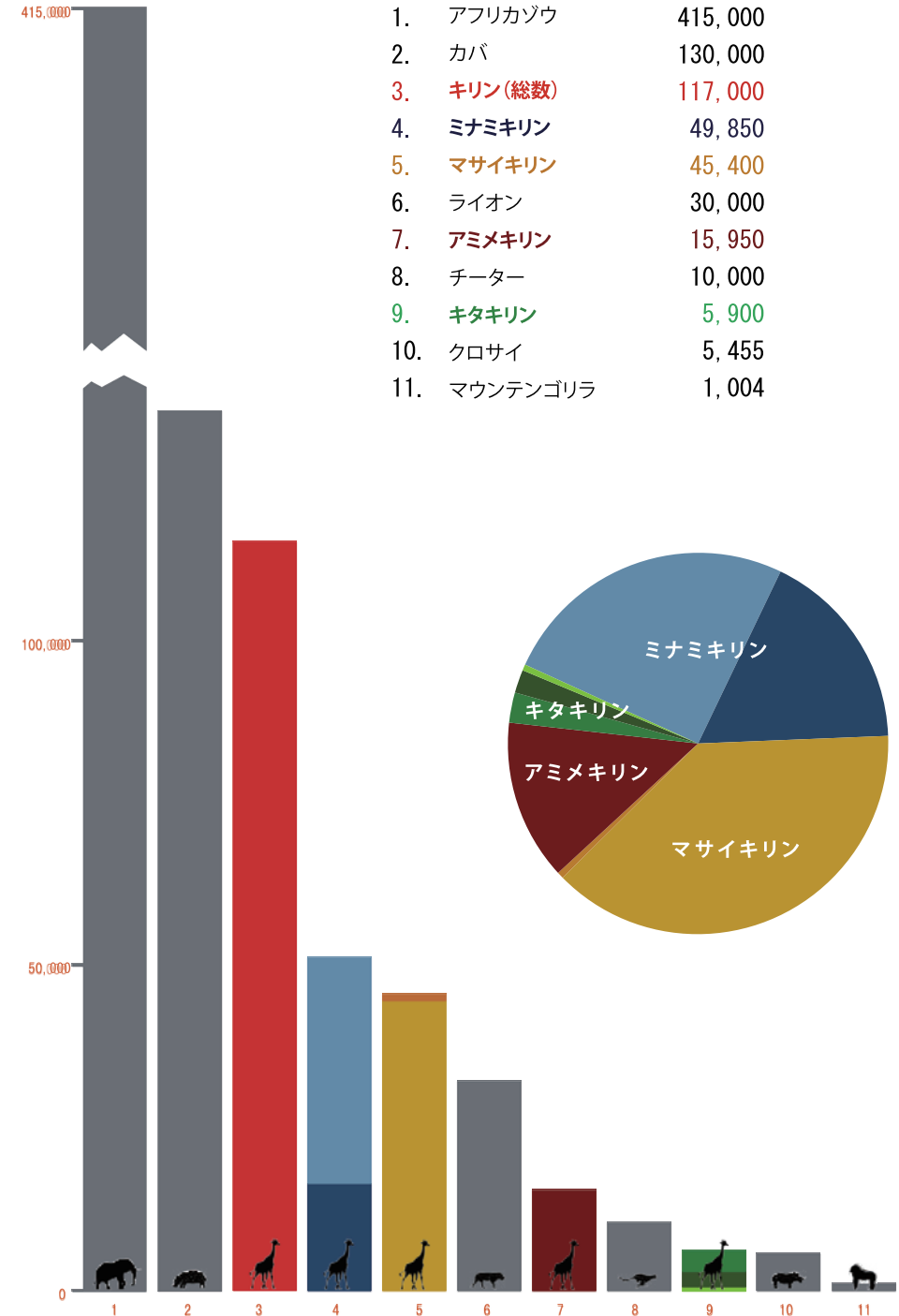
西アフリカキリン

VU(危急)

GCFは多くの科学誌にキリンの現状を紹介しているように、キリンの状態についての情報を更新し続けています。これらの情報は昔と現在の生息数や分布、国特有の脅威について照らし合わせることができます。

以下のデータはStatues of Giraffe 2020という報告書のためにGCFがまとめた最新の個体数のデータです。これは5年後のIUCNの評価の際に利用されます。

種、亜種別の生息数	
キタキリン	5,900
コルドファンキリン	2,300
ヌビアキリン	3,000
西アフリカキリン	600
ミナミキリン	49,850
アンゴラキリン	20,200
南アフリカキリン	29,650
アミメキリン	15,950
マサイキリン	45,400
ルアングワキリン	650
マサイキリン	44,750



国際条約

キリンの国際取引は制限されており、2019年の絶滅のおそれのある野生動物種の国際取引に関する条約（CITES）では付属書IIに記載されています。GCFはキリンの取引の現状を監視し、将来的な評価を行っています。キリンは国境を越えた保護や監視が必要であるため、2018年には移動性野生動物種の保全に関する条約（CMS）の付属書IIにも記載されました。GCFは、アンゴラ政府と国連がこの条約への記載について提案するのに大きく貢献をしました。

保全活動の関係者

アフリカの21か国に生息する野生のキリンは、国有の国立公園や保護区から私有地や共同の土地まで、さまざまな管理された土地で暮らしています。これらの地域に住む個人や団体はキリンの重要性を理解しており、直接的または間接的に彼らの保全に関わっています。キリンはアフリカ全土に広く生息しているため、彼らの保全は容易ではありません。国や関係者やキリンのそれぞれが優先すべき事項を組み込んだ、地域的、国家的、種特異的な行動計画を策定することが極めて重要ですが、簡単なことではありません。



GCFはキリンの保全に関わる人たちとの協力を通してそれぞれの国ごと、種ごとのアプローチを行うことで、キリンの保全活動に役立っています。GCFはこれまで6つの国と1つの地域を対象とした、キリンの保護戦略と行動計画の策定と実施をサポートしてきました。これは、キリンの保全のための取り組みを行っていく上で重要なことなのです。

キリンを取り巻く脅威

生息地の消失、生息地の分断、生息地の衰退、人口増加、密猟、病気、戦争や社会不安といった影響によって、キリンとその生息地が脅かされています。脅威の多くは人間の資源をめぐる争いによって直接的、間接的に引き起こされています。生息地の減少は、農地や牧畜、木材の確保のために人間が土地を必要とすることが原因で起こっています。

人間とキリンとの衝突は一般的にはありませんが、農作物の被害や、家畜と生息地を共有することによる伝染病などによって衝突が起こる可能性があります。



キリンの生息地の分断や消失は、人間の侵略や土地の開発によって引き起こされており、キリンの個体群が孤立することにより遺伝的多様性が失われています。

キリンの異種交配も問題であり、それぞれの種の遺伝的な特異性が消失してしまう恐れがあります。野性下で異種交配が起こるとい証拠はありませんが、すでにある種のキリンが生息している地域に他の種を導入することによって異種交配が起こる可能性があります。そしてそれは南アフリカですでに起こっているのです。



保全活動における制限要因

キリンは他の野生動物や家畜と食物をめぐる争いをしないという点が長所となっています。土地をめぐる衝突は時々起こりますが、キリンが人間に対して脅威を与えることはありません。それにもかかわらず、アフリカで保全活動に影響を与える要因がいくつかあります。

科学的

キリンに関する長期的な研究や昔から現在までの信頼できるデータ、そしてキリンを対象とした保全研究の存在は限られています。この情報の欠如が、保全と管理そして生態学と分類学の発展を制限してしまっているのです。しかし興味深い進歩も見られています。GCFらが実施した遺伝子の共同研究では、キリンの分類学を取り巻く謎を解明し、4つの種の保全と管理についての情報を提供しました。現在アフリカで行っている研究のいくつかは、キリンの生息する自然環境で初めて実施されているものです。

キリンを他の地域に移動させる保全計画は、新たな個体群を確立したり小さな個体群を支持したりするのにかなり有効ですが、これは重要かつ困難な輸送事業です。保全団体はキリンの個体数を安定させるために多大な努力をしており、アフリカ南部や最近ではケニア、マラウイ、ニジェール、ウガンダですでに成功を収めています。輸送上の課題があるにも関わらず、GCFが行っているキリンの移動プログラムは、政府や他のパートナーと



密に協力することで、既に700万エーカー以上の生息地の増加・増強に成功しています。

GPSを活用することでキリンの生息地の利用状況や移動後のモニタリング、季節的な動き、生息域についての調査が可能となっています。これらの情報は、キリンやその他の野生動物の長期的な管理計画を立てる上でとても貴重なものです。GCFのTwiga Trackerは、これまでにキリンに対して実施されたGPS追跡プログラムの中で最大のものです。GCFはアフリカにおけるキリンの生息環境を理解することで、新たな保全方法を開発しています。しかし

GPSを利用したキリンの追跡方法は、時間的にも経済的にも多くの投資が必要となります。そしてその費用はGCFとその協力者によって支払われています。独特の体格を持つキリンの保全活動は容易ではないのです。

生態学的

キリンの個体数は、捕食や病気による死亡によって変動しており、これは個体群によって異なります。ライオンはキリンの最も大きな捕食者です。一部の個体群では、1歳未満のキリンの子どもの死因のうち50%以上がライオンによるものです。キリンはヒョウやブチハイエナから攻撃されることは少なく、チーターやワニからの攻撃はさらに少ないです。また、キリンの個体数は水不足の影響も受けており、食物の質や量の不足による栄養失調や炭疽菌といった病気、牛疫(=偶蹄類の感染症)を引き起こします。それに加えて、特定のエリアでは人間による密猟も個体数の変動の要因となっています。

社会的

保全に関してキリンは、サバンナゾウやサイといった他の種の保全と主に資金の面で競い合っています。しかし現在のキリンの個体数はサバンナゾウの3分の1強に過ぎないことが分かっています。この矛盾と現状が世界の多くの人に知られていないせいで、キリンはどこにでもいて、保全の危機には直面していないと思われてしまっているのです。しかし、35年の間に個体数は30%減少しており、保全の重要性が問われています。



キリンの重要性

経済的

キリンの重要性は、その独特な進化にあります。この間違えようのないシルエットは、製品の販売やイベントなどのシンボルとして世界中で利用されています。キリンがアフリカのシンボルであるのと同じくらい、その独特な姿と穏やかな性格は様々な目的で広く利用されています。キリンは多くの人に愛されているのです。

アフリカでは、観光業によって生み出される経済効果が、野生動物のいる地域で生活している人たちのモチベーションとなっています。多くの旅行会社やサファリでは、アフリカがエキサイティングな旅行先であることを宣伝するためにパンフレットにキリンを掲載しています。そしてアフリカへ旅行に行く人にとってもキリンは必ず見たいものなのです。

ビッグファイブ(=アフリカのサバンナゾウ、ライオン、ヒョウ、バッファロー、クロサイ)や数少ない有蹄類とはちがって、キリンは戦利品としての需要がありません。そのため狩猟や身体の一部の取引はあまり行われず、それによる個体数の減少は起こりませんでした。

生態学的

キリンは生息地とその景観を変化させます。ゾウやクロサイのような他の草食獣と一緒に植物が生長した地域を開いていき、それによって彼らや他の動物たちの新たな餌となる植物の生長を促しています。

もう少し具体的に言うと、キリンが植物を食べることで様々な植物の発芽を促し、さらには花粉の媒介も行います。キリンなどの大型草食動物から保護されている地域では、アカシア(セネガリアやバケリア)の減少がみられ、その結果、他の野生動物の食料源に影響を与えることになってしまいます。

また、キリンは植物の種子を食べ、糞を通して種子を新たな場所に分散させる役割も持っています。種子はキリンの消化管を通過することで強化され、さらに肥料にも含まれていることで発芽率が上がるのです。

キリンと相利共生の関係にあるのは植物だけではなく、ウシツツキなどの動物も挙げられます。これらの鳥はキリンが届かない場所の毛づくろいをすることで、キリンに寄生するダニを取り除き、それを貴重な食料源としているのです。

昔のローマ人はキリンがラクダやヒョウの仲間であると思っていたため、学名が「*camelopardalis*」となっています。コロシムでは弾猛さがなかったために観衆はがっかりしたそうです。

DID YOU KNOW?

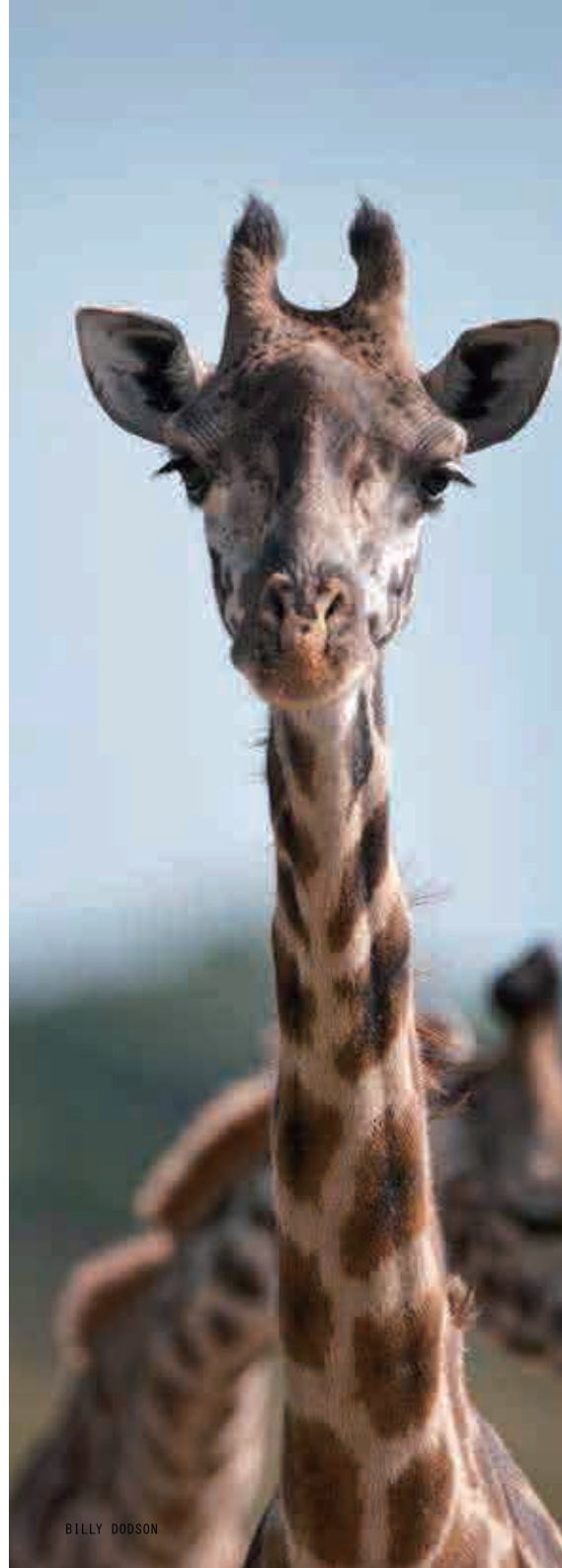
これから

GCFは野生のキリンの未来を守るために活動しています。アフリカ政府やNGO、大学、研究者、そして国連やIUCNなどの国際機関と協力することで、アフリカの16の国での適切な保全計画を推進・サポートしています。キリンの保全や管理をするうえで、簡単な解決方法はなく、協力者と共にサポート・活動することが重要なアプローチになります。究極的には、キリンはアフリカに住む人々だけで保護することができるのですが、国際的な支援も大切なのです。

GCFはキリン保全の戦略枠組みを策定し、保全にあたっての優先事項を手引きするだけでなく、これからの保全の計画も提供しています。

GCFが大切にしていることは、サポーターたちと緊密な協力関係を持って国や地域のキリンの保全計画を実行したり、他の地域への個体群の導入による保全をサポートしたり、個体数の調査を実施したり、その他の保全・管理の努力を行なうことです。

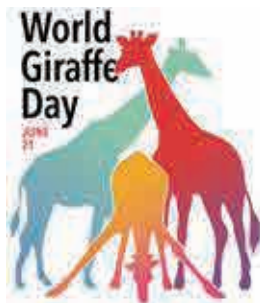
DID YOU KNOW?
これまでにキリンはアフリカの7つの国で絶滅しています。



世界キリンの日 6月21日

世界中のキリンを祝いましょう!

世界キリンの日は最も昼の時間が長い日に、最も首の長い動物を祝うためにGCFが定めた年に1度のイベントです!



2014年に設立された世界キリンの日は、この愛されている動物を世界中で祝うだけでなく、支援を高め、意識を高め、キリンが野生下で直面している問題について焦点を当てる機会となります。世界キリンの日には世界中の動物園、学校、NGO、政府、協会、保全団体が参加しています。

世界キリンの日を支援することで、あなたは直接アフリカのキリンを助けることができます。野生で生き残っているキリンはおよそ117,000頭しかいません。今まさに行動する時なのです。



キリン保全財団

GCFはアフリカに生息するキリンの保全と管理に特化した世界で唯一のNGOです。私たちの小さなチームは、今後のアフリカのキリンの個体数を守ることに専念しています。GCFは現在アフリカの16の国のキリン保全団体を支援し、共に活動しており、すべてのキリンの種と亜種に焦点を当てた活動をしています。私たちの活動は、1億エーカー以上のキリンの生息地に影響を与えています。

GCFはアフリカのキリンの保全と管理に特化した団体として、政府機関や保全団体、学術機関、地域社会との緊密な協力関係を維持するために、拡大し続けるネットワークを使用しています。これはキリンの保全や管理について議論を行う場となり、キリンの現状に対する意識と教育を大幅に向上させることができます。GCFはキリンの生態学、種形成、保全および管理についての理解を深めるために、さらなる保全化学と研究サポートを行なっています。

GCFはキリンの代弁者です

アフリカのキリン保護を支援する



Visit the GCF website
<https://giraffeconservation.org/donate>





Adopt a Giraffe
<https://adopt.giraffeconservation.org/>



ANN & STEVE TOON

info@giraffeconservation.org / giraffeconservation.org

 <https://www.facebook.com/giraffeconservationfoundation/>

 https://www.instagram.com/giraffe_conservation/

 https://twitter.com/Save_Giraffe

この「アフリカのキリン-保全ガイド」の改訂版は、キリン保全財団(GCF)によって制作されました。写真は写真家の方々のご協力により、無料で掲載させていただいております。また、前版の制作に携わったの方々のご尽力に感謝いたします。

Copyright © Giraffe Conservation Foundation 2022

Copyright for photographs as credited

Cover image by Majed Sultan



GIRAFFE CONSERVATION FOUNDATION